

交渉速報

JR貨物労組中央本部業務部

2022年2月16日

No.11

2022JR総連春闘 始動！

ベースアップ 6,000 円要求!!

基準額・最低額・年齢保障給も 6,000 円改善すること!!

～「2022年度新賃金要求の申し入れ（申第6号）」第1回交渉報告～

中央本部は本日、「2022年度新賃金要求の申し入れ（申第6号）」とあわせて「諸要求改善に向けた申し入れ（申第7号）」を会社に申し入れ団体交渉を行ない、以下の主張を行ないました。

- ① 新たな変異株・オミクロン株により感染者が拡大する中、新規感染者数が1日で10万人を超え、34都道府県で「まん延防止等重点措置」が発令されている。しかし、指定公共機関として社会的責任を果たすために、組合員は新型コロナウイルス感染の不安の中で奮闘している。
- ② 今冬期の雪害による輸送障害発生時にも鉄道貨物輸送の安全確保や安定輸送に大きく寄与し、最大限の営業収入の確保・拡大にむけて血のにじむような努力を続けている。
- ③ 2021年度事業計画は1月期改定で収支見直しを行なったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて計画は未達となっている。この厳しい状況を乗り越えるためには組合員の協力が必要である。
- ④ 原油の高騰、電気・ガス・食料品などの値上がりによる実質賃金の減少に加えて、可処分所得が低下し、組合員の生活改善は進んでいない。
- ⑤ 優秀な人材の確保と組合員のモチベーションの更なる向上をはかるために「ベア実施」と「諸要求実現」が必要不可欠である。会社は信義誠実の原則に従って団体交渉を行ない、誠意ある回答を示すことを強く要請する。

これに対して会社は次のように回答しました。

- ① 新型コロナウイルスの影響により、年明けから急速に感染拡大が続いている。職場での感染予防対策に協力していただき感謝している。
- ② 指定公共機関である当社を支えるため、社員一人ひとりが責務を果たして頂いていることに、改めて感謝申し上げます。
- ③ 雪害による除雪対応や、列車抑止時の遅れ対応、営業の顧客対応に努めて頂き、この間の災害対応にも尽力して頂いている。
- ④ 1月期改定を行なったが、まん延防止等重点措置が発令され収入は計画から乖離している状態である。今年度の黒字はめざすが非常に厳しい現状を理解して頂きたい。
- ⑤ 回答指定日まで約1カ月間、緊張感ある真摯な交渉を行なっていきたい。

申し入れに引き続き、会社から収入動向・輸送量動向等についての団体交渉を行ないました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. 1月の収入動向は、コロナ禍による需要低迷に加え、相次ぐ雪害等各種災害の影響により、全ての品目で計画を下回った。特に農産品・青果物は、北海道地区夏季干ばつに伴う作柄不良の影響を受け低調に推移したほか、食工品は外食産業むけ需要低迷により低調となった。その結果、コンテナ全体では対計画△9億7千5百万円（89.1%）となった。
2. 1月の車扱輸送は、石油需要が寒波の影響により強勢に推移した上、仕切値が年明け後に上昇を続けたことで先買い傾向が強まり計画を上回った。車扱全体で対計画2千万円（101.5%）となった。1月期の収入全体の合計は対計画△9億5千5百万円（90.7%）である。
3. 1月の輸送量動向は、各都道府県で発令された「まん延防止等重点措置」に加え、北日本地区で相次ぐ雪害の影響を受けたものの、前年の緊急事態宣言や津軽線等が不通となった雪害の反動で、自動車部品、工コ関連物資、他工業品を除く品目で前年を上回った。
4. 車扱輸送量は、前年は緊急事態宣言下での外出自粛に伴い揮発油を中心に低迷していた反動により前年を上回った。結果、輸送量全体では対前年比103.2%となっている。

【事業開発部門】

1. 関連事業は、新小岩分譲マンションの販売開始、北上、向日町、苗穂における土地貸付、賃貸マンションの満床稼働など、現在計画・進行中の案件を着実に進展させる。また、外部物件購入による賃料収入の拡大など新規案件の拡大や、既存物件の計画修繕を行ない賃料維持をはかっており、計画達成にむけて順調に進んでいる。
2. 鉄道事業は、2021年度は新規貸付が無いものの、物流施設の解約、減額依頼が少なく収入は安定傾向にある。暫定貸付の拡大や既存物件の賃料維持、業務費・修繕費の執行を的確に行なうことにより、計画達成にむけて順調に進んでいる。
3. 廃止となった社宅跡地の早期収益化のため、地域需要などを見極め、再開発、売却について早期に判断を行なう。2021年度は、坂ノ市社宅、新大江社宅について処理を行なった。市場から取得した不動産により賃貸収入を得るスキームで、フレッシュブランド2棟目となる「フレッシュ経堂」を購入した。昨年度購入した「フレッシュ中目黒」も満室化にむけて積極的に営業活動を進めている。

中央本部は、「コロナ禍に加え、相次ぐ自然災害対応、要員不足の中でも、安定輸送の確保に努めている組合員の苦勞に答えるべきである。計画を立てるのは会社だが、実行するのは組合員である。前年より収入が回復しているのは組合員の努力の結果である。次回交渉で要求の根拠を示すので誠意ある回答を示されたい。」と主張しました。

これに対し会社は、「前年度を上回っているが、前年度も災害で減収しており、災害補正を行なうと対前年99.2%である。貴組合の意見はしっかりと受け止め、回答指定日にむけて真摯に交渉を行なっていきたい。」と回答しました。

本日の申し入れによりJR総連春闘がスタートしました。中央本部は、災害時でも輸送の確保に汗する組合員の労苦に報いるため、要求の実現にむけて全組合員が結集し創意工夫した闘いをつくり出し、その最先頭で闘う決意で臨むことを明らかにし、第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は3月1日(火)です。